

環境報告書の評価

第三者による検証

環境報告ガイドライン2013年版との比較検証結果書

環境報告の記載事項	2014 記載頁	記載がない場合の理由
環境報告の基本的事項		
1. 報告にあたっての基本的要件		
(1) 対象組織の範囲・対象期間	2, 3	
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	3	
(3) 報告方針	2, 3	
(4) 公表媒体の方針等	2, 3	
2. 経営責任者の緒言	1	
3. 環境報告の概要		
(1) 環境配慮経営等の概要	14～26	
(2) KPIの時系列一覧	43～46	
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	42, 47	
4. マテリアルバランス	42	
環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況を表す情報・指標		
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等		
(1) 環境配慮の方針	28	
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	29, 30	
2. 組織体制及びガバナンスの状況		
(1) 環境配慮経営の組織体制等	28～33	
(2) 環境リスクマネジメント体制	32, 33, 48	
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	48～50	
3. ステークホルダーへの対応の状況		
(1) ステークホルダーへの対応	11～13, 65～69	
(2) 環境に関する社会貢献活動等	11～13, 40～41, 56～66	
4. バリューチェーンにおける環境配慮の取組状況		
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	34～36	
(2) グリーン購入・調達	34～36, 50	
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	-	非製造業
(4) 環境関連の新技术・研究開発	56～58, 61～64	
(5) 環境に配慮した輸送	-	非製造業
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	-	非製造業
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	37～39	
事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組みに関する状況を表す情報・指標		
1. 資源エネルギーの投入状況		
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	31, 40, 42～47	
(2) 総物質投入量及びその低減対策	37, 42～47	
(3) 水資源投入量及びその低減対策	42, 43, 45, 47	
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)		
40, 41		
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況		
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	-	非製造業
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	31, 42～47	
(3) 総排水量及びその低減対策	42, 43, 45, 47	
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	42～47	
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	37, 38, 42	
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	37～39, 42, 44～47	
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	37～39	
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況		
28, 39		
「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標		
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況		
(1) 事業者における経済的側面の状況	26	
(2) 社会における経済的側面の状況	-	非製造業
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況		
48～54, 56～60		
1. 後発事象等		
(1) 後発事象	無し	
(2) 臨時的事象	無し	
2. 環境情報の第三者審査等		
70, 71		

独立行政法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の環境報告書の掲載内容の網羅性について独立した外部の専門家から評価を受けられるのは昨年に引き続き今年で2回目となりましたが、継続して報告書の信頼性向上に努力されていることを評価いたします。

一方、組織外部からの表彰・顕彰歴も多く掲載されておりますが、これは、JAMSTEC の CSR 活動が外部から高く評価され、信頼性が高いという証です。

今後は、この報告書が幅広く、より多くのステークホルダーの皆さんに開示・伝達される工夫を期待いたします。

2014年9月

津上 昌平

・環境マネジメントシステム審査員 (CEAR)
 ・技術士 (環境部門)
 ・環境カウンセラー (事業者部門)

JAMSTEC ECO-REPORT 2014 によせて 第三者意見

2014年9月

南国市環境課（左から） 課長補佐兼施設整備係長

楠本 雅昭 氏
課長 島崎 哲 氏
環境係長 弘田 明平 氏



環境報告書を拝読し、まずは海洋研究開発機構が取り組まれている調査・研究活動のダイナミズムに、少年心というか冒険心を突き動かされました。トピックスを見ただけでも調査船や新型無人探査機の完成報告、日本近海だけにとどまらず世界を股にかけての調査、そして特別展「深海」の開催など、どの記事を見ても海洋ファンならずとも非常に興味深い内容ではないでしょうか。

さて、今回の特集では高知コア研究所が紹介されており、同研究所は南国市の南東部の物部地区に、国立大学法人高知大学キャンパスと共にあり、掘削コアの分析・研究、保管を行う拠点となっています。このような身近な施設がコア資料を基にした地球環境の変動の調査や地震研究、そして有用な物質や生物の調査に使われていること、また世界各国から研究者が訪れてコアを用いた研究を行っていることに、今更ながら誇らしく思います。近い将来起こることが予想されている南海トラフ地震に向けて高知県や市町村では様々な準備を始めております。南国市でも海岸地域に津波避難タワーを14基建設するなど、津波に対する備えをしております。貴研究所でのコア資料を基にした地震に対する研究が進むことを切に願っております。

次に、環境に配慮する取り組みについてですが、各部署での実績例やグリーン購入実績などの報告、さらにはグリーンカーテンの実施についてなど、貴職における様々な取り組みがなされていることがわ

かりやすく書かれており、加えて環境パフォーマンスについても各実績についてきちんと自己評価をされており、組織一丸となって環境配慮活動に取り組まれていることがよくわかります。当市でも、地球温暖化防止対策実行計画（事務事業編）により、CO₂削減のための行動を行っておりますが苦慮することばかりで、貴職の活動にはなほだ感服するばかりです。

今年は深海がブームのようで、ダイオウイカやダイオウグソクムシなどが多くのテレビ番組で取り上げられていました。今回のJAMSTEC TRIVIAでは教育活動などの取り組みが紹介されていましたが、「夏休み科学実験教室」はまさしく深海生物についての教室だったようで、参加した子供たちがきらきらとした目で興味深く学んでいる様子が目に浮かびます。全国の理科好きの子供たちのためにも、日本各地でこのような教室が開催されることを願っております。また、同コラムでは、「高知コアセンター講演会」についても紹介されています。残念ながらすでに終了しているイベントでしたが、毎年開催されているようですので、次回こそは参加してみたいと思います。

末筆ではありますが、貴職の世界を股にかけて調査研究が地域貢献につながることを、また、世界へ発信する地球環境研究のまさしく日本の資源となることを期待しております。